



オンライン交流を  
併用しながら、  
お互いの理解を  
深める機会を  
創出していきます。

Closeup Interview  
クローズアップインタビュー

林 熙順 氏

イム・ヒスン

駐仙台大韓民国総領事館 総領事

プロフィール

1963年8月1日生まれ。  
大韓民国江原道原州市出身。韓国外国語大学英語科卒業後、1992年1月、大韓国外務部入部。1995年1月、駐トロント大韓民国総領事館副領事に就任。その後、駐チェコ共和国大韓民国大使館、駐ブルガリア大韓民国大使館などで勤務。駐横浜大韓民国総領事館領事、駐ホノルル大韓民国総領事館副総領事兼ハガッニャ出張所所長などを歴任し、2021年6月より現職。

【概要】

駐仙台大韓民国総領事館

代表者 林 熙順  
事業内容 東北6県を管轄地域とし、韓国人同胞団体の育成をはじめ、韓国との地方間交流といった政務業務経済、通商、投資相談（経済通商）、文化、観光広報、スポーツ交流、在外国民登録、旅券手続きなどの行政手続き業務、申請業務などを行う。

所在地 仙台市青葉区上杉1-4-3  
TEL 022-221-2751~3(代表)  
HP <https://overseas.mofa.go.kr/jp-sendai-ja/index.do>

― 仙台の印象はいかがですか。

仙台は「杜の都」という愛称の通り、木々や公園が多く、住みやすい町ということを実感しています。気候的にも快適で、勤務していることに、日々感謝しています。実は4年前、当時の総領事であった梁桂和さんの勧めで、仙台を初めて訪れました。松島にも行きましたが、とてもいい印象を受けました。

私は韓国の地方都市で生まれました。ですから、釜山やソウル、日本では横浜という大きな都市でも生活しましたが、どこよりも、仙台の雰囲気私によく合っていると感じています。私の印象ですが、仙台の皆さんの表情や動きから、「余裕」をより多く感じます。以前勤務していた横浜などの首都圏は、人口や交通渋滞などの影響があるからでしょうか。私は仙台のゆとりや豊かさが好きです。

― コロナ禍における両国の文化交流について、どのような感想をおもちですか。

コロナの影響で、仙台―仁川直行便が運休し、両国の国民間の対面交流もほとんどできなくなっている状況を、とてももどかしく思っています。

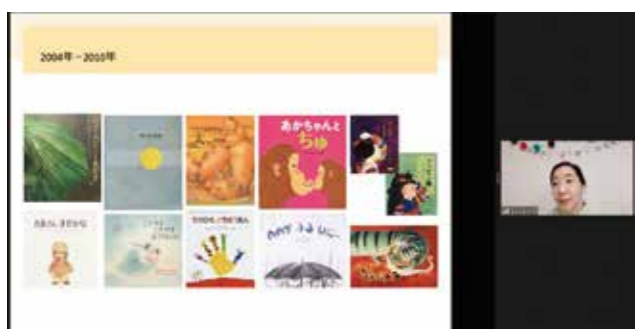
対面行事が不可能な状況ですが、私たち総領事館でもオンラインで、現在30の事業を推進中です。

最も印象に残っているのは、韓国と日本、それぞれの国の絵本作家が、両国の国民を対象に絵本についてのお話をするという講演会です。絵本というソフトな素材を通じて、両国の文化的共通性や違いなどに対する理解を深めることができました。この評価をいただきました。多くの方から好評いただいたこともあり、11月中旬に2回、追加行事を行う予定です。これまで私たちは、オンラインによる交流を検討したことはありませんでした。しかし、コロナ禍でオンライン交流の長所である「時間、場所、人数、費用等にとらわれない」という点が増え、簡単に集まれる」という点をお家時間が増えた影響もあり、両国のドラマや音楽、漫画、アニメなどにも関心

が互いに高まっています。コロナ収束後は、オンラインとオフラインによる行事を並行して実施することで、相互文化交流がより頻繁になっていくと思います。

― コロナ収束後のインバウンドに関する取り組みについて、お考えをお聞かせください。

2019年に日本を訪問した韓国人観光客は560万人、2018年は760万人でした。日本は、地理的な近さや文化的類似性などもあり、韓国人の観光需要は高いと言えると思います。2020年と2021年は、コロナ禍で相互訪問客数が激減しましたが、これまで「旅行に行



写真上：今年6月から9月までの期間、4回に渡って開催した韓国絵本を紹介するオンラインイベントの様子。イベントには延べ約500人が参加し、韓国絵本を通して韓国文化に理解を深めた。

写真下：宮城オルレの「大崎・鳴子温泉コース」を、栗を拾いながら歩いた日の1枚。その栗は翌日蒸して、職員の皆さんとおいしく食べたのだそう。

仙台・宮城・東北にも多くの方々を訪ねると思います。なぜなら、ここには魅力的なところがたくさんあるからです。例えば、宮城オルレ（韓国に倣ってつくられたトレッキングコース）や温泉、ゴルフ場、スキー場など、韓国人が関心をもつような要素をそろえて備えています。最近、韓国の若年層の間で健康とゴルフに対する関心が高まっています。ゴルフを楽しんだ後、温泉で疲れを癒やし、翌日は宮城オルレで自然を満喫するといった、東北の魅力が多様に体験できるような旅行商品があれば、韓国人旅行者の関心を集められるだろうと思います。

― 宮城オルレは、林総領事もすでに3コースを歩かれたと伺いましたが。

私はもともとウォーキングが好きで、宮城にある4つのオルレコースのうち、奥松島、大崎・鳴子温泉、登米の3コースを歩いてみました。どれも素晴らしいコースで、本当に楽しかったです。最近歩いた大崎・鳴子温泉コースには、栗の木の並木があり、コース上に落ちた栗を当総領事館の職員たちと一緒に拾いながら歩きました。

## Closeup Interview

# 宮城オルレや温泉、ゴルフなど、 韓国人旅行客を惹きつける魅力が 仙台・宮城・東北にはたくさんあります。



残り1つの、海岸に沿ってコースがつくら  
れている気仙沼・唐桑コースを歩く日が、  
いまから楽しみです。

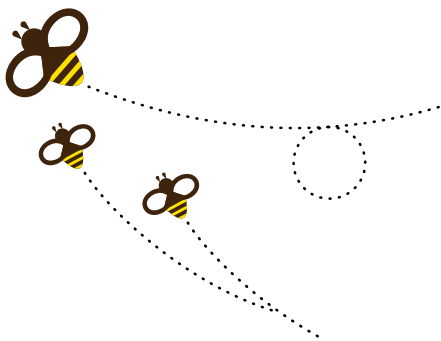
また、クラシック音楽を聴くことも好き  
で、仙台に来てからは、仙台フィルハーモニ  
ー管弦楽団の定期演奏会は、可能な限り  
欠かさず観賞しようと努力しています。  
それから、宮城県美術館の展覧会も楽し  
んでいます。日本を代表する彫刻家であ  
る佐藤忠良の作品をはじめ、展示されてい

る数々の作品は、いつ鑑賞しても気持ち  
が高揚しますね。この10数年間、忘れて過  
ごしていた文化や芸術分野に対する関心  
が、仙台に来てよみがえってきました。

— 今後の抱負をお聞かせください。

韓国と日本は地理的に隣国です。歴史  
的には長い間、親善と友好関係を維持し  
てきました。しかし、経済的にはパートナ  
ーとして助け合っていますが、まだお互い  
によくわからない部分がたくさんありま  
す。ですから、両国国民が経済など多様  
な分野でお互いに頻繁に会うことを願っ  
ています。何度も会えば理解が深まり、  
信頼が築かれます。経済的に強みがある  
分野で、信頼を基礎に相互協力すること  
で、Win-Winの関係に進むことができ  
ます。

このように相手に対する理解と信頼  
は、両国が未来志向的に発展する土台と  
なりますので、私はこれから両国国民が  
何度も会って交流し、文化に接する機会  
をできるだけ多く設けられるよう努力し  
ます。直近では12月11日に「仙台白菜で  
作るキムチフェスティバル」の開催を予定  
していますし、30のオンライン行事でも、  
両国国民が相互理解を深める機会を計  
画しています。これからも民間文化交流、  
経済協力関係を維持、発展させていくこ  
とができるよう、企業の皆さまとともに  
相互協力してまいりたいと思います。



より良い環境をめざす。

青葉環境保全 **AOBA**

〒984-0037 仙台市若林区蒲町19-1 TEL 022(286)3161(代)